

「負担の集中をさける」ために

賢く使う **教育ローン** **という選択**

人生の3大支出といわれる

教育費

住宅購入費 老後資金

住宅購入や老後資金と並んで人生の3大支出にあげられる教育費。子供のためには出費をいとわないのが親の心情ですが、どうやってねん出し、日々の生活への負担を軽減していくかは考えておきたいものです。林税理士事務所(鹿児島市)の林高宏税理士にアドバイスいただきました。

高校卒業までずっと公立に通ったとして、子供1人当たり約550万円の教育費がかかります(表1)。その後、大学・専門学校などに進学すると、さらに700万円~1150万円程度の教育費がかかります(表2)。高校入学から大学卒業までに1人当たり平均で1000万円超、学費は世帯年収の37%、仕送り額は年間約100万円に上るといアンケート結果を、日本政策金融公庫が発表しています。子供1人当たりの教育費はこんなにかかるものなのです。

教育ローンを借りているみなさんは、どのように教育費をねん出しているのでしょうか。代表的なのは…

では、みなさん何を節約しているのでしょうか。主なものは…

- 節約(教育費以外の支出を削っている)
 - 子供のアルバイト
 - 預貯金・保険の取り崩し
 - 奨学金
 - 残業・パートでの収入増
 - 旅行・レジャー費
 - 外食費
 - 衣類の購入費
 - 食費
 - 小遣い
- 子供にちゃんとした教育を受けさせたいという親御さんの思いが伝わってくるようです。**
- アドバイス** 大学などへの進学後にかかる費用は半分をめぐりに積み立て残りは教育ローンなどさまざまな方法を活用

教育費はすべてを事前に貯金するのは難しいので、高校卒業までは通常の家計費の中でやりくりし、大学などへの進学後にかかる費用の半分をめぐりに、積み立てるのが現実的といえそうです。残りの半分は、さまざまな方法で乗り切るようにする一と考えるてはいかがでしょうか。その中で教育ローンの借入れは、返済期間が長い分、在学中の親御さんへの負担の集中が避けられるメリットがあります。

〈監修〉 **林 高宏** (はやしたかひろ) 税理士 CFP®
志学館大学非常勤講師

1960年鹿児島市生まれ。同志社大学卒業後、国税局を経て、96年鹿児島市で税理士開業。「税務署に読まれぬ帳簿術」「税務署に読まれぬ確定申告の書き方」「一人で生きる女性のお金が貯まる本」(エール出版)など著書多数。南日本新聞「フェリア」で家計診断のアドバイザーを務めている。

教育には**お金がかかる!**

入学金 書籍代 校外模試代 ユニフォーム代 参考書代 留学費

受験料 塾代 教材費 授業料 習い事代 修学旅行代 部活動代

(表1) 平均教育費

	公立	私立
幼稚園(3年間)	¥688,872	¥1,623,678
小学校(6年間)	¥1,846,338	¥8,356,428
中学校(3年間)	¥1,441,449	¥3,708,768
高等学校(3年間)	¥1,548,552	¥2,942,550

※文部科学省「平成20年子どもの学習費調査」をもとに作成

